

## 若者たちの怒り

### 1, グレタ・トゥーンベリさんの国連で怒りのスピーチ

若者はあなたたちの裏切りに気づき始めています。9月25日、全世界の人々が耳にして驚き、共感と反感をかった有名なスピーチです。感情のこもったスピーチです、その場の臨場感のある日本語に訳するのは難しいですが、私の理解の範囲で全文を掲げます

私たち（若者）は（今ここにいる）あなた方を注意深く見つめている。

今私はここにいるべきではない。私は海の反対側（母国スウェーデン）で学校に戻っているべきだ。（私は16歳の高校生だから）



それなのにあなた方は私たち若者のもとに希望を求めてやってくる。（未来の若者達が解決してくれるだろうと期待している）よくもできるものだ・こんな事は完全に間違っている。

あなたたちは空虚な（空言の）言葉で私の夢、子供時代を奪った。

それでも私は運がいい（恵まれている）

多くの人々は苦しんでいる、死にかけている。生態系の全体が崩壊しかけている。私たちは絶滅に差ししかかっている。なのに、あなた方が話すのは金のこと、ずっと続くと考えている経済成長と言うお伽話だけ、なんということだ（恥ずかしくありませんか）

過去30年以上科学はとても明瞭だ（科学が示す事実は極めて明確だ）

なのに、それに目をそむけ続け、必要な政策や解決策が見えていないのに、この場所に来て「自分たちは十分にやってきた」と、よくそんなことが言えるものだ。

あなたたちは私たちの声を聞き、「緊急性は理解したと」言う。

でもどれだけ悲しみと怒りを感じても私はそれを信じたくない。

なぜなら、もしあなた方が本当に状況を理解しているのに、それでも座視（行動を起こしていない）続けるなら、あなたたちは悪だからだ。

私は信じることを拒否する

今後10年間で温室効果ガスの排出量を半減させると言う、よくある考え方では、気温上昇を1.5度以内に抑えられる可能性は50パーセントしかありません。

人類が制御できない後戻りの出来ない連続反応を引き起こすリスクがあります。

50パーセントという数字でおそらくあなたたちは満足するかもしれない。

でもこの数字はあなたたちが空気中に出した何千億トンもの二酸化炭素を私達の世代が今の時点でほぼ存在していない技術で吸収することをあてにしている。だから50パーセントのリスクは私たちにとって受け入れない。

それだけではない、私たちはその結果と共に生きていかなければならない。

地球の気温上昇を1.5度に抑える確率を67%にするには、気候変動の政府間パネル

（IPCC・専門家がつくる国連の気候変動に関する政府間パネル）の最善の予測では、世界のCO2排出許容量は2018年1月1日の時点では4,200億トだったのが、現在では3,500億トンを下回った。（IPCCは2019年9月25日、このままのペースで温室効果ガスの排出が続けば、今世紀末に海面上昇が1メートルを超える可能性がある」と政策立案者向けに発表したばかりである）

よくも従来通り取り組みをと技術的な解決策で何とかなると装うことができたものだ。今のレベルでは残されたCO2排出許容量に8年半もたたずに達してしまう。現在これらの数字に沿って作られた解決策や計画は全くない。その数字はあなた方にとって都合が悪すぎるからだ。

そしてそう言えるほども成熟していないあなたたちには失望した。

しかし若者たちはあなたたちの裏切り行為に気づき始めている。未来の世代の目はあなたたちに注がれている

あなたたちが私たちに失望させる選択をすれば、私たちは決して許さない。あなたたちは逃さない。まさに今この場所で私たちは一線を引く。世界は目覚めよとしている。変化が訪れようとしている。あなたたちが好むと好まざるにかかわらず。

## アメリカの反応の一部

気候変動サミットでの演説が大きな反響を呼んだスウェーデンの環境活動家グレタ・トゥンベリさんについて、米国の政治評論家が次のような侮辱するような発言をした。「精神的に病んでいる（アスペルガー症候群であることは、本人が明らかにしている）両親や国際的な左翼に利用されている」と述べた。別のコメンテーターから「子どもを攻撃するな。恥を知れ」と言われると、「精神的に病んでいる子どもを利用して左翼を攻撃している」と弁明した。

## 日本の反応の一部

あるコメンテーターは「政治経済の現実が解らない子どもの狂信的な発言に振り回されてはならない」一笑に伏して、日本の環境大臣の「セクシー」発言に重きをおいた解説をしていた。セクシー発言とは「気候変動のような大きな問題は楽しく、クールで、セクシーに取り組むべきだ」（前後の事情等各種の説明があるが世界に飛んだのはこの言葉）

「あなたたちは空虚な（空言の）言葉で私の夢、子供時代を奪った」と言われても仕方がない。

その後世界中で賛成と中傷の声が上がっているが、私は次のメッセージに賛同しています。

スロベニアの哲学者スラボイ・ジジェクは「彼女のメッセージはシンプルだ。科学を真剣に受け止めろということだ」と述べ、「彼女のような自閉症的な女性が必要なのだ。なぜなら、彼女のメッセージは美しく、疑いようもなく正しいからだ」と賞賛している。

## 私見

①今の時点でほぼ存在していない技術で吸収することをあてにしている

①未来の人間の発明する技術に依存している。原爆の後処理問題が盛んに論じられたときと全く同じ発想。今の世代の「先送りという責任転嫁」「自分の都合が良ければという発想」だから、今、問題にしてもどうしようもない。現代文明が行き着いたところは「自分の都合」とう自己中心的な考えである。

②私たちはその結果と共に生きていかなければならない。

この言葉は重い！深い意味と未来への悲壮感が漂っている。

「2050年子供の死因で最も多くなると考えられているものは大気汚染である」とOECDはEnviromental Outlook to 2050で発表したばかりである。(2019年9月25日)

子ども達にとっては、非常に都合の悪い環境(=水、空気、食物の三大生命維持要素)がどれほど悪化しているか分からない。その恐怖からの「怒りと涙の訴え」を我々がどう受けとめるか。真摯真剣に受けとめなければならない。

日本においては人口の減少という世界のトレンドと真逆なことが起きている。日本の単身世帯の割合は1980年は19.8%、それが2040年には40%になると予想されています。

今年の異常な暑さ、猛暑日は、温暖化対策をしなかった場合、2100年の東京の猛暑日は60日になると予想されています。

身近な運動も大事、それ以上に政治家の姿勢を変えるシステムを人間が考える必要がある、正にその時が今だ考えます。

③若者たちはあなたたちの裏切り行為に気づき始めている。

世界は目覚めよとしている。変化が訪れようとしている。あなたたちが好むと好まざるにかかわらず。

これからの生活が豊かになると考えている日本人の割合は-23%。多いか少ないか。若者の意見はどうなのだろうか？

## 責任転嫁の繰り返し

聖職者からお叱りを受けるかも知れませんが、聖書の創世記第1章11-12節を部分引用します。

「神は言われた。『お前が裸であることを、誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか』アダムは答えた『あなたが私と共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました』(新共同訳)

都合の悪いことは神の前でも人のせいにする、責任逃れ、自己正当化、これらをまとめて自己中心性と言い得ると考えますが、人類の歴史と共に古い人間の行為です。

私たちはこのような現実の状況の中で生きてます。我が国においては、再び憲法改正が勢いを増してきました。現在の政党政治のもとでは、政治家個人の考えは反映されず、強制された数の論理が強引に働きますから、首相は独裁体制を築くことができます。頑強に出来上がった今の体制を崩すことは難しいです。憲法改正に関しては国民投票という主権者が熟慮できる機会がありますが、それも巧みな誘導に影響されない成熟した国民の自律性と良識の発揮いかんによります。政党政治が続くとすれば、拮抗する力が必要です。その為、小選挙区制から中選挙区制に戻すことは出来ないものか。学識卑賤な私は考えます。諦めと無関心は独裁者の思う壺です。それに歯止めをかける何らかのきっかけだけでも子孫のために作らないと、大きな負債を子孫に残したまま罪悪感を持って言い訳をしながらこの世を去って行くことになるかも知れなと猛省する昨今です。憲法を常に考えておられる林先生に敬意を表します。(以上の文は大阪の公認会計士林光行先生発行の季刊誌「シェアリング・レター」に投稿させてもらった私の拙文です)